

パーキンソン病と口腔環境・嚥下機能に関する研究

このたび、「パーキンソン病と口腔環境・嚥下機能に関する研究」について
広島大学疫学研究倫理審査委員会の承認を得ました。その内容につきまして、
以下に公開いたします。

パーキンソン病は、運動緩慢、筋強剛、振戦を主症状とする神経疾患で、嚥下障害による誤嚥性肺炎を来すことの多い疾患です。そのため、口腔内環境や嚥下機能の評価およびケアは非常に重要です。近年、消化管を中心とした細菌叢とパーキンソン病との関連も報告されており、歯周病菌をはじめとした口腔内細菌も注目されつつありますが、疾患との関連ならびに症状の進行に与える影響や長期的な予後にどのように影響するかは十分わかっていません。また、嚥下障害の種類も多岐にわたるため、適切なケア、リハビリを検討するうえでその評価は大変重要になってきます。そこでパーキンソン病の患者さんで、口腔・嚥下機能、口腔内環境が症状進行や予後にどのような影響を与えるのか、いくつかの検査結果と照らし合わせて明らかにしていくことを目的としています。

本研究はパーキンソン病の診断を受け、主たる療養の場が自宅の患者さん
で、令和6(2024)年3月31日までに当院および共同研究機関で加療を受け

の方が対象となります。書面にて署名同意いただいた患者さんには、血清菌周病抗体価の測定を計画しており、通常の血液検査の際に5ml多く血液を採らせていただくこととなっています。なお、平成22(2010)年4月～令和3年4月28日(承認日)までの患者さんについては、基本情報、検査所見、病状の進展状況についての情報を診療録から収集させていただきます。

この研究は、対象となる患者さんの日常診療で得られる診療に関する記録(検査結果など)を集めますが、特別な治療や検査を行うことはありませんので、患者様に直接何らかの利益または不利益が生じることはありません。また、対象となった患者さんの住所・氏名など個人が同定されるような情報は、当院以外の第三者に知られることはありません。共同研究機関の患者さんにつきましても、個人が同定されるような情報は各機関で厳重に管理され、当院およびその他の共同研究機関に提供されることはありません。

研究により得られた診療情報や血清は、カルテ番号やお名前など個人を特定する情報がわからないように匿名化した上で、本学にて解析します。診療情報や血清は、データ解析され、研究終了後5年間保存しますが、上述の期間を超えて保管させていただき、ほかの研究にも使用する可能性があります。将来計画・実施される研究において使用する場合は改めて倫理審査委員会で審査

し、承認されたうえで使用します。

共同研究機関

機関名 地方独立行政法人広島市立病院機構広島市立リハビリテーション

病院脳神経内科 責任者名 加世田 ゆみ子

機関名 ビハーラ花の里病院脳神経内科 責任者名 織田 雅也

機関名 国立病院機構柳井医療センター脳神経内科 責任者名 宮地 隆史

機関名 国立病院機構東広島医療センター脳神経内科 責任者名 末田 芳雅

機関名 国立病院機構広島西医療センター脳神経内科 責任者名 渡邊 千種

機関名 広島市立広島市民病院脳神経内科 責任者名 野村 栄一

機関名 広島市立安佐市民病院脳神経内科 責任者名 山下 拓史

機関名 広島県立広島病院脳神経内科 責任者名 時信 弘

ご自身（もしくはご家族の）の診療記録がこの研究で利用されることについて異議のある方、または研究内容について詳しく聞きたい方は、担当医もしくは当院の研究責任者にお申し出ください。

<研究責任者> 広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学

丸山 博文 (教授)

<担当者> 広島大学病院 脳神経内科

中森 正博 (助教)、山田 英忠

<連絡先> 082-257-5201